

公益財団法人浜松市医療公社第 13 期（令和 7 年度）事業報告について

1 事業総括

令和 7 年度は、中期計画期間の最終年度として、また新病院 A 棟稼働後の運営体制を安定的に稼働させる重要な一年となった。高度急性期医療を取り巻く環境は、地域医療構想の促進、病床機能報告制度の厳格化、医療従事者不足、人件費や物価および原材料等の高騰など、大きな変化の局面にあり、医療の質と持続可能な病院経営の両立がこれまで以上に求められている。

こうした状況の中、地域の基幹病院として救急・高度急性期医療を安定的に提供するとともに、令和 7 年 4 月に設立された地域医療連携推進法人「Hamamatsu Academic Medical Alliance（略称：HAMA）」を軸に浜松医科大学附属病院との連携強化を推進し、医療機能の分担、医薬品等の共同購入、教育・共同研究連携、人事交流等、協働体制の構築を進めたことにより、地域医療全体の質向上及び経営の効率化が進展した。また、A 棟及び次年度からの B 棟建設設備に係る家賃負担への対応として、病床稼働率の向上、正確な診療報酬算定、先進的治療の導入、業務の効率化、医療 DX の推進等を図り、業務改善並びに経営改善への取り組みを着実に推進した。

2 事業内容

1）住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

（1）政策的医療に関する業務

ア 救急医療

- ① 二次救急医療機関並びに三次救急医療機関として、ハイブリッド ER や血管造影装置等を活用し、脳血管障害、心疾患等を中心に救急患者を受け入れ、地域の救急医療の需要に対応した。
- ② A 棟救命病棟と隣接配置とした救急外来機能の利点を生かし、救急医療の円滑な診療・治療体制の継続に努めた。
- ③ 救急医療の重要性を認識し、救急搬送患者及び紹介患者を積極的に受け入れた。
- ④ 救急救命士を救急外来に配置し、救急搬送患者の診療補助等の役割を担うことで円滑な救急外来の運営を図った。

関連指標	R7 年度計画 (A)	R7 年度実績 (B)	計画達成率 (B) / (A)	R6 年度実績 (C)	増減 (B) - (C)
救急患者数	11,700 人	12,445 人	106.4%	11,687 人	758 人
入院	5,000 人	5,645 人	112.9%	5,035 人	610 人
外来	6,700 人	6,800 人	101.5%	6,652 人	148 人
救急搬送受入患者数	6,200 人	7,029 人	113.4%	6,238 人	791 人

イ 小児・周産期医療

- ① 地域周産期母子医療センターとして、周産期センター（NICU・GCU を含む）を活用し、常時母体及び新生児の受け入れ体制を維持するとともに、合併症妊娠、切迫早産、胎児異常等、母体又は胎児におけるリスクの高い妊娠に対する医療及び高度な新生児医療の提供に努めた。
- ② NIPT（非侵襲性出生前遺伝学的検査）及び出生前の遺伝相談に対応する等、難治性の遺伝子解析を実施し、認定基幹施設としての役割を果たした。

- ③ A棟の入院環境や産褥期食の改善等の情報を広く発信し、分娩の受け入れ件数を維持した。また、市立湖西病院への助産師派遣を継続し、妊産婦の受け入れを推進した。
- ④ 産婦人科専門医と麻酔科専門医による分娩管理のもと、質の高い安全な無痛分娩を提供し、妊婦ニーズに合わせて件数の増加について準備を進めてた。
- ⑤ リプロダクティブヘルス（性や妊娠、出産、生殖等に関する悩み）の相談に対応する女性健康外来にて、女性のライフステージに応じた診察を実施した。
- ⑥ 産後ケア事業の推進を図り、安心して子育てができるよう支援した。
- ⑦ 地域の小児医療の中核的役割を果たすため、継続して小児一次救急（休日当番診療）の提供に努めた。

関連指標	R7 年度計画 (A)	R7 年度実績 (B)	計画達成率 (B) / (A)	R6 年度実績 (C)	増減 (B) - (C)
小児科のべ患者数					
入院	3,700 人	4,351 人	117.6%	3,827 人	524 人
外来	16,800 人	16,252 人	96.7%	16,776 人	△524 人
分娩件数	580 件	583 件	100.5%	584 件	△1 件

ウ 感染症医療

- ① 海外渡航に伴うワクチン外来を継続し、予防投与や体調不良等、グローバルに活躍される方の健康面を支援した。
- ② 新興感染症の蔓延に対して、県、市、地域医療機関と連携を図り、市民の安全確保及び感染対策への取り組みを継続して実施した。
- ③ B棟改修工事に伴い、新興感染症の初期対応が可能な外来エリア及び感染入院病棟を設置したことから、感染管理室にて感染症 BCP マニュアルを作成した。

エ 災害時医療

- ① 災害時において、傷病者の受け入れ及び医療救護班(DMAT)の派遣等、災害拠点病院として医療救護訓練を実施した。
- ② 浜松地区人工透析施設災害時拠点病院として、患者の受け入れを迅速に対応できる体制整備を維持した。

オ 障がい者歯科診療

- ① 歯科診療所と浜松市口腔保健医療センターとの機能分化及び連携を強化し、地域歯科診療支援病院として中核的役割を果たした。
- ② 歯科診療所では診療困難な脳性麻痺や発達障害等の患者を受け入れ、外来歯科治療及び入院下での全身麻酔歯科治療に対応した。
- ③ 脳性麻痺や発達障害等の摂食嚥下機能障害の原因疾患のある小児患者の摂食機能療法を実施した。

(2) 高度・専門医療に関する業務

ア 高度・先進的医療

- ① 呼吸器外科、泌尿器科、消化器外科、婦人科によるロボット（ダビンチ）手術を実施し、件数増加を図った。
- ② 拡充した無菌室環境を効果的に活用し、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの専門的治療を積極的に実施した。
- ③ 人工関節置換術（股関節・膝関節）の手術を支援するロボットを活用し、安全かつ正確な手術を実施し、術後の脱臼率の低減や疼痛の低減等、患者の早期回復に努めた。

- ④ 股関節・膝関節・脊椎疾患関連の専門的手術に対して、近隣の開業医と緊密な連携関係を維持・増進し、さらなる件数の増加を図った。
- ⑤ 新設した血管造影室、ハイブリッドORを活用し、心臓血管疾患、動脈閉塞性疾患やブラッドアクセス等の血管疾患に対する専門性の高い手術件数の実施に取り組んだ。
- ⑥ 突発性難聴、難治性潰瘍を伴う末梢循環障害等に対する高気圧酸素治療の有効性を地域の開業医に発信し、治療枠の拡大(入院患者の土曜日治療の開始)を図り、早期からの積極的な治療を推進した。
- ⑦ 関節リウマチに対する教育入院の拡大とともに、浜松市や浜名湖かんざんじ温泉観光協会と、温泉の効能による治療効果等と地域事業の発展のためにPR戦略を共同で推進した。
- ⑧ 血栓溶解療法(t-PA)及び脳血管内治療手術を24時間365日受け入れる体制を継続し、市内及び市立湖西病院からの脳卒中疑い患者の受け入れに積極的に対応した。
- ⑨ 急性期充実体制加算1の算定要件を満たすよう各項目の実施進捗状況に注視し、算定継続に取り組んだ。

関連指標	R7 年度計画 (A)	R7 年度実績 (B)	計画達成率 (B) / (A)	R6 年度実績 (C)	増減 (B) - (C)
手術件数 (手術室)	6,300 件	6,315 件	100.2%	6,336 件	△21 件
全身麻酔件数	2,950 件	2,973 件	100.8%	2,944 件	29 件
うち、全身麻酔による緊急手術件数	450 件	467 件	103.8%	479 件	△12 件
救急搬送患者の入院3日以内の入院精神療法件数	30 件	34 件	113.3%	34 件	0 件
腹腔鏡下又は胸腔鏡下手術件数	490 件	722 件	147.3%	655 件	67 件
心臓カテーテル法手術件数	630 件	685 件	108.7%	747 件	△62 件
消化管内視鏡手術件数 (内視鏡室)	600 件	615 件	102.5%	588 件	27 件
心臓胸部大血管手術件数	100 件	8 件	8.0%	96 件	△88 件

イ ん診療

- ① 地域がん診療連携拠点病院として、質の高い診断と治療（手術・放射線治療・化学療法）の提供、積極的な患者支援を遂行した。
- ② 地域がん診療連携拠点病院として、希少がん治療への対応することから、神経内分泌腫瘍に対するルタテラ療法を推進した。また、前立腺がんに対する核医学療法としてプルヴィクト療法を開始した。
- ③ がん化学療法の専門性を高め、患者へ安全に治療提供を行うため、外来化学療法室を活用して、より多くの症例に対応した。
- ④ がんゲノム医療連携病院として、がんゲノム医療を推進するため、がん遺伝子パネル検査の実施並びに遺伝カウンセリングの充実を図った。
- ⑤ がんに伴う症状や治療による副作用を軽減する目的で行う支持療法を推進すると共に頭皮冷却装置(脱毛予防)の活用を進め、がん患者の生活の質の維持に努めた。
- ⑥ 緩和ケアチームの新規介入を積極的に実施した。
- ⑦ 行政や企業主との連携のもと、がん患者就労対象者の支援を推進した。
- ⑧ がん患者の周術期における専門的な口腔ケアの提供の充実を図り、医科歯科連携の推進に努めた。
- ⑨ 専門・認定看護師の活動を強化し、がん患者への心理的ケアや治療の意思決定支援の充実を図った。
- ⑩ 浜松市教育委員会と協働し、市内小・中・高校生へのがん教育推進に努めた。

関連指標	R7 年度計画 (A)	R7 年度報告(B) (R6 年 1～12 月)	計画達成率 (B) / (A)	R6 年度報告(C) (R5 年 1～12 月)	増減 (B) - (C)
院内がん登録数	1,000 件以上	1,273 件	127.3%	1,060 件	213 件
関連指標	R7 年度計画 (A)	R7 年度実績(B)	計画達成率 (B) / (A)	R6 年度実績(C)	増減 (B) - (C)
悪性腫瘍の手術件数	750 件	887 件	118.3%	763 件	124 件
がんに係る薬物療法 延べ患者数	1,500 人	1,488 人	99.2%	1,423 人	65 人
がんに係る放射線治療 延べ患者数	380 人	416 人	109.5%	403 人	13 人
緩和ケアチーム新規 介入件数	200 件	229 件	114.5%	211 件	18 件
がんゲノム遺伝子パネル 検査数	50 件	49 件	98.0%	43 件	6 件

ウ アレルギー診療

- ① アレルギー疾患医療拠点病院として、総合アレルギー外来にて診療科の垣根を越えた包括的かつ専門性の高いアレルギー診療を提供した。

エ エイズ治療

- ① エイズ治療拠点病院として、エイズ感染者の診療及び関係医療機関等への研修活動等を実施し、県内のエイズ治療の中核的役割を果たした。

オ 臓器・骨髄移植に関する医療

- ① 骨髄・末梢血幹細胞の移植及び採取認定施設として、移植医療提供の推進に努めた。
- ② 日本臓器移植ネットワーク・県コーディネーターと連携し、円滑な臓器移植提供を実施し臓器移植医療に貢献した。

(3) 地域医療への貢献

ア 地域住民の健康増進及び疾病予防

- ① 特定健康診査（特定健診）、企業健診（生活習慣病予防健診）及び人間ドック並びにがん検診等の実施件数の増加に努めた。
- ② B棟改修工事後に移転する予定の健診センターの運営体制の整備及び健診システムの更新準備を進めた。
- ③ 1日人間ドックのオプションとして脳ドックや肺がんドック等のプラン検討を行い、ドック健診の充実を図った。

関連指標	R7 年度計画 (A)	R7 年度実績 (B)	計画達成率 (B) / (A)	R6 年度実績 (C)	増減 (B) - (C)
特定健診	16,500 人	16,452 人	99.7%	16,263 人	189 人
（再掲）人間ドック	1,100 人	1,334 人	121.3%	1,144 人	190 人
胃がん検診	6,200 人	5,888 人	95.0%	6,110 人	△222 人
大腸がん検診	10,650 人	10,275 人	96.5%	10,432 人	△157 人
結核肺がん検診	16,500 人	16,085 人	97.5%	16,247 人	△162 人
子宮がん検診	3,700 人	3,537 人	95.6%	3,818 人	△281 人
乳がん検診	2,480 人	2,446 人	98.6%	2,498 人	△52 人

イ 地域診療所等との連携

- ① 計画的に開業医への訪問活動を実施し、病診連携の運営に反映させ、紹介患者の確保に努めた。
- ② 紹介患者を断らない体制強化のため、各診療科責任医師が緊急時の窓口となり、開業医からの診療依頼に対応できるよう努めた。
- ③ 紹介率の維持・向上を図るため、各診療科と連携強化を図り、紹介患者の積極的な受け入れに努めた。また、患者や開業医からの紹介をスムーズに予約できるシステムサービスを活用し病診連携の充実を図った。
- ④ 新規入院患者の受け入れが滞ることがないように、各病棟に配置する退院支援職員の活動を活性化させ、入院早期から適切で速やかな退院支援を実施した。また、緊急入院患者に対しても早期に退院支援に対応できる体制を構築し、スムーズな病床運営に努めた。

関連指標	R7 年度計画 (A)	R7 年度実績 (B)	計画達成率 (B)/(A)	R6 年度実績 (C)	増減 (B)-(C)
紹介率	82.0% 以上	83.0%	101.2%	82.4%	0.6P
逆紹介率	110.0% 以上	120.6%	109.6%	110.9%	9.7P
入退院支援加算算定件数	4,500 件	5,310 件	118.0%	4,628 件	682 件

(4) 地域における医療水準の向上

ア 医療従事者及び医療従事者を目指す者の育成

- ① 地域医療連携推進法人による浜松医科大学との連携により、両病院間の医師・看護師の交流を図る等、医療資源を有効に活用し協力・共同体制を推進した。
- ② 浜松医科大学の関連教育病院として、医学部学生の臨床実習の受け入れを行い、医療従事者の育成に努めた。
- ③ 市立看護専門学校への講師派遣及び看護実習生の積極的な受け入れ等を行い、地域の医療専門職の育成に貢献した。
- ④ 地域医療の提供体制を確保するため、市立湖西病院との連携強化を継続し、医師、助産師の派遣並びに両病院間の機能分担を推進した。

関連指標	R7 年度計画 (A)	R7 年度実績 (B)	計画達成率 (B)/(A)	R6 年度実績 (C)	増減 (B)-(C)
浜松医科大学学生臨床実習 受入延べ人数	275 人	271 人	98.5%	264 人	7 人
看護実習生受入延べ人数	8,000 人	7,253 人	90.7%	8,053 人	△800 人

イ 医学及び医療の向上に関する調査、研究

- ① 臨床研究管理センターが中心となり、医薬品等の治療効果や安全性を高めるために行われる治験への取り組みや、先進医療の推進と医療の発展に貢献した。
- ② 「とおとうみ臨床試験ネットワーク」や「静岡県治験ネットワーク」へ継続的に参加し、治験及び臨床研究の受託件数増加に努めた。

関連指標	R7 年度計画 (A)	R7 年度実績 (B)	計画達成率 (B)/(A)	R6 年度実績 (C)	増減 (B)-(C)
治験実施件数	10 件	11 件	110.0%	10 件	1 件
臨床研究実施件数	230 件	243 件	105.7%	221 件	22 件

(5) 医療の質及び安全の確保

ア 患者中心の安全・安心な医療の提供

- ① インシデント・アクシデント・オカレンス発生時は、職員が報告制度に基づき自主的に報告し、分析、再発防止に取り組むとともに、院内や自部署で発生したインシデント・アクシデント・good job 事例を職員で共有し事例から学ぶ機会を推進した。
- ② オカレンス・アクシデント等の有害事例は、速やかに現場安全管理者から医療安全管理室に報告し、組織的に対応を行った。
- ③ 医療安全にかかわる事象のモニタリングを継続し、医療従事者としてコンプライアンスの遵守に努めた。
- ④ CVC ライセンス制度の継続及び CVC 関連安全対策の実践を評価した。また、経鼻栄養チューブ挿入、挿入中の管理の手順の周知徹底と実践状況を評価した。
- ⑤ 転倒転落のリスク評価を適切に行い、転倒転落アクシデント発生率の減少に努めた。
- ⑥ 急変事例・RRS 事例収集を継続し、発生部署へ問題点をフィードバックし、改善に向けた取り組みを実施した。
- ⑦ e-learning の活用、集合研修、事例検討会等のテーマに合わせた方法で研修会を開催した。また、医療安全カンファレンスに研修医及び各部署の職員が参加することで、医療安全管理について知識の習得に取り組んだ。
- ⑧ 臨床倫理に関する職員教育として、研修会や症例検討会など開催し、DNAR について職員が共通認識を持ち、多職種で患者の意思決定に関われるよう支援した。

イ 医療の標準化と最適な医療の提供

- ① 院内クリニカルパスの見直しを図り、医療の標準化、質の高い医療の提供に努めた。
- ② 高度急性期病院として7対1急性期一般入院料の基準を満たし、チーム医療が提供できるよう多職種で協働し、最適な医療サービスを提供に努めた。

ウ 医療スタッフの確保

- ① 医師の確保と負担軽減
 - ・救急医療、がん医療、高度専門医療等の水準を維持・向上させるため、医師の育成及び確保に努めた。
 - ・臨床研修医の要望や社会的な要請に合致した教育研修プログラムのさらなる充実により、臨床研修医の受け入れ推進と定着に取り組んだ。
 - ・働き方改革に沿った勤務環境の改善を推進し、医師個人の負担軽減に努めた。
- ② 看護職及び医療技術職の確保と専門性の向上
 - ・7対1急性期一般入院料の基準の維持のため、必要な看護師の確保に努めた。また、離職防止対策を講じることで、看護師の定着を図った。
 - ・業務改善WGを立ち上げ、時間外勤務が多い職種に対してはタスクシフト・タスクシェアを推進し、業務負担の軽減、疲弊による離職防止に取り組んだ。
 - ・高度専門医療機能である重症集中治療室(ICU)、救命救急センター、手術センター等に対応できる看護師、臨床工学技士、診療放射線技師等の確保及び育成を推進した。
 - ・専門医・特定行為研修修了看護師・認定専門看護師・専門技師等の資格取得の促進を図った。
- ③ 事務職員の確保と専門性の向上
 - ・事務職員を計画的に採用し、資質向上と事務局内の課題改善に対応した。
 - ・病院経営の中核的役割を果たせるよう、事務職員の育成に努めた。

関連指標	R7 年度計画 (A)	R7 年度実績 (B)	計画達成率 (B) / (A)	R6 年度実績 (C)	増減 (B) - (C)
臨床研修医募集定員充足率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0P
臨床研修医マッチング数	14 人	14 人	100.0%	14 人	0 人
認定・専門看護師数	39 人	41 人	105.1%	37 人	4 人
(再掲) 特定行為看護師数	8 人	8 人	100.0%	7 人	1 人
100 床あたりの医師数	31.7 人	31.2 人	98.4%	29.5 人	1.7 人
100 床あたりの看護師数	106.1 人	102.2 人	96.3%	99.4 人	2.8 人

(6) 患者サービスの向上

- ① 患者満足度調査や「患者のみなさまの声」から患者ニーズを把握し、そのニーズを満たすために迅速かつ柔軟な改善及び対応を行った。
- ② 看護補助者の充実により、入医療サービスの向上に努めた。
- ③ 患者の視点に立った安全・安心なサービスを提供するため、建築設備等の不具合を速やかに改善できるよう取り組んだ。
- ④ 患者に効率的な医療を提供できるためのマイナンバーカードを活用したオンライン資格確認（マイナ保険証）の促進や、電子処方箋の導入準備及び電子カルテ情報共有サービス事業を展開し、医療DXによる質の向上を推進した。

(7) 法令等の遵守と情報公開の推進

- ① 医療法等の関係法令を遵守し、院内の各種規程の整備及び見直しを定常的に実施した。
- ② インフォームド・コンセントの一層の徹底、カルテやレセプト等医療情報の開示請求、セカンド・オピニオンの対応について、適切に取り扱い、患者及びその家族の信頼向上に努めた。

2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

(1) PDCA サイクルによる経営戦略の構築

- ① PDCA サイクル（Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）の繰り返し）を用いて、計画的かつ継続的に改善活動を実施した。

(2) 適正な人事配置と評価

- ① 高度な専門知識と技術を提供するための優れた医療従事者を適切に配置した。
- ② 健全な経営を維持するため、業務量に応じた適正な人員数配置に努めた。

(3) 職員の就労環境の整備

- ① 日常業務の質の向上を図り、患者の安全を守るために必要な職員の就労環境を整備した。
- ② 職員個々の能力を発揮できるよう、職種・職場の事情に応じた柔軟な勤務形態を推進し働きやすい勤務環境を継続した。
- ④ 医師、看護師等の業務のタスクシフトに取り組み、生産性向上と働き方改革に沿った勤務環境改善の推進と離職の防止に努めた

3 財務内容の改善に関する事項

(1) 収入の確保

- ① 新規施設基準の取得や正確な診療報酬の算定に取り組み、診療単価の向上を図った。
- ② 新入院患者の増加に向けた取り組みを行うとともに、DPC期間Ⅱ以内の退院率70%を目標に病床回転率を上げて、収益の向上に取り組んだ。

- ③ 診療密度、外保連指数の数値に注視し、全身麻酔下による手術件数の増加を図る等、D P C 特定病院群の指定に向けた取り組みを行った。
- ④ 専門外来を充実し紹介患者の増加に努めた。また、日帰り外来手術を増やす取り組みを継続して行い、外来患者及び外来診療単価の増加を図った。

関連指標	R7 年度計画 (A)	R7 年度実績 (B)	計画達成率 (B) / (A)	R6 年度実績 (C)	増減 (B) - (C)
入院患者のべ数	180,675 人	180,118 人	99.7%	176,509 人	3,609 人
1 日平均入院患者数	495 人	494 人	99.8%	484 人	10 人
病床利用率	82.5%	82.2%	99.6%	80.6%	1.6P
平均在院日数	11.5 日	11.7 日	—	11.8 日	△0.1 日
外来患者のべ数	250,470 人	257,631 人	102.9%	250,244 人	7,387 人
1 日平均外来患者数	1,035 人	1,065 人	102.9%	1,030 人	35 人

(2) 費用の節減

- ① 医薬品や診療材料の調達に際して、ベンチマークシステムを活用し、価格交渉の徹底を図るとともに、浜松医科大学附属病院との地域医療連携推進法人を活用した共同購入等の検討を進めながら、さらなるコスト削減に力を尽くした。
- ② 医薬品購入費の削減を図るため、新規採用薬品の厳密な選定、同種同効薬の整理、院内各部署における定数配置薬の整理等を行い、医薬品管理の強化を図った。
- ③ 業務委託契約、賃貸借契約等について、原則、競争原理を働かせる手法により契約内容及び契約金額の見直しを行い、委託費・賃借料の費用を抑制した。
- ④ 医療の質、医療安全の確保等に配慮した職員の生産性が向上する採用と配置を進め、人件費比率の適正化に取り組んだ。

(3) 経常収支比率の均衡

- ① 公立病院の責務として、不採算医療を担うとともに、高度・専門医療を提供し地域の医療水準の向上に貢献するなど、常に公共性と経済性を共に発揮し、地域住民の医療を確保するため尽力した。
- ② 必要な公的負担を受けながら、最小経費によって最大効果を得られるよう効率的な運営に努め、中期的な財政健全化を目指し収支均衡を図ることができるよう取り組む。

関連指標		R7 年度計画 (A)	R7 年度実績 (B)	R6 年度実績 (C)	増減 (B) - (C)
給与費対医業収益率		46.5%以下	48.0%	47.1%	0.9P
材料費対医業収益率		32.2%以下	34.5%	33.0%	1.5P
主な内訳	薬品費	19.0%以下	21.5%	19.3%	2.2P
	診療材料費	12.4%以下	12.1%	12.7%	△0.6P

4 その他業務運営に関する重要事項

(1) 新病院整備事業

- ① B 棟改修工事について、A 棟の整備に伴う経験を活かし、浜松市や設計・施工者と連携を図り、整備計画を進めた。また、整備計画において病院機能に関わる重点事項については浜松市と協議を実施した。

- ② 利活用が可能な機器、什器、備品等をB棟に適切に設置及び配置することにより、費用負担の軽減を図った。
- ③ B棟改修工事に併せた病棟別の診療科を効果的に配置し、病院全体で効率的な病棟及び病床運営を実施できるよう見直しを図った。

（２）医療と介護の連携推進事業の支援

- ① 地域包括ケアシステムの構築に向け、医療及び介護の連携推進事業を推進し、公立病院の役割を果たした。
- ② 地域包括支援センターや地域の介護福祉施設等との連携強化を図り、在宅医療・介護連携に関する相談支援に努めた。

（３）公立病院の連携・支援

- ① 地域医療を確保するため、市立湖西病院に医師及び助産師の派遣支援を継続的に実施した。また、市立湖西病院からの救急搬送患者の受け入れや分娩の受け入れを行い、病病連携の推進に取り組んだ。
- ③ 浜松医科大学との地域医療連携推進法人の設立に伴い、西部構想区域において効率的な医療の提供に努めていく。

（４）職員の子ども及び地域の子どもに対する保育の提供に関する業務

- ① 地域型保育事業の認定を受けたあゆみ保育園において、職員の子ども及び地域の子どもに対する保育の提供を行い、公立病院として地域を含めた働きやすい子育て支援環境の維持、確保に努めた。
- ② 職員の子供が病気の際に自宅での保育が困難な場合、病院内病児保育施設において、病児・病後児を一時的に保育することで、安心して業務と子育てができる環境を整備した。